



各務原市の予算 ～何に、誰に、いくら～ 市民1人あたりで考えてみる

令和3年度の各務原市が運営している6つの会計(『一般会計』、『国民保険』、『介護保険』、『後期医療保険』、『水道』、『下水道』)の予算を一つにまとめて、市全体で「何に、誰に、いくら使うのか」をわかるようにしました。総額は約850億円となり、金額が大きくてピンとこないのが、人口で割算した「市民1人あたりの金額」を計算して、イメージしやすくしてあります。なおこれらの集計金額は、繰入金や減価償却費などの実際には費用を伴わない項目を省いて、独自の方法で集計していますので、市の発表とは金額が違ってきます。※このページの金額はすべて市民1人あたりの金額です。

市民1人あたりに使われる金額は57.8万円(右のグラフ)

①『お年寄りの医療費など』 (172,248円)

65才以上の方の医療や介護にかかる費用。事務経費も含む。

②『お年寄りや社会的弱者対策』 (57,569円)

福祉の里、慈光園など、お年寄りや障がい者の方々が健康に過ごすための様々な施設や行事の運営に係る経費。ほか生活に困窮する方々の社会保障(生活保護費の11,600円を含む)など。

③『64才以下の医療費など』 (35,917円)

国民健康保険の中の高齢者以外の金額のほか、予防接種や健康診断、休日診療所の運営など。会社員や公務員などの社会保険・共済保険などで支払われる医療費は含まない。(市の会計には含まないため)

④『子供のため』 (83,183円)

学校の建設・修繕・運営の経費のほか、児童福祉、母子保健など。長年にわたり本市の課題だった小中高一貫の特別支援学校の建設事業の本年度分予算は660円。教師の給与は含まない。(教師は県職員のため)

⑤『道路など基盤整備』 (24,902円)

都市計画に基づき、道路・橋・排水路など災害対策も含めた建設・保全。公園整備も含む。

⑥『借金返済』 (50,549円)

行政用語では『公債費』という。過去の市の借金返済の元金と利息。

⑦『ごみ処理など環境保全』 (18,225円)

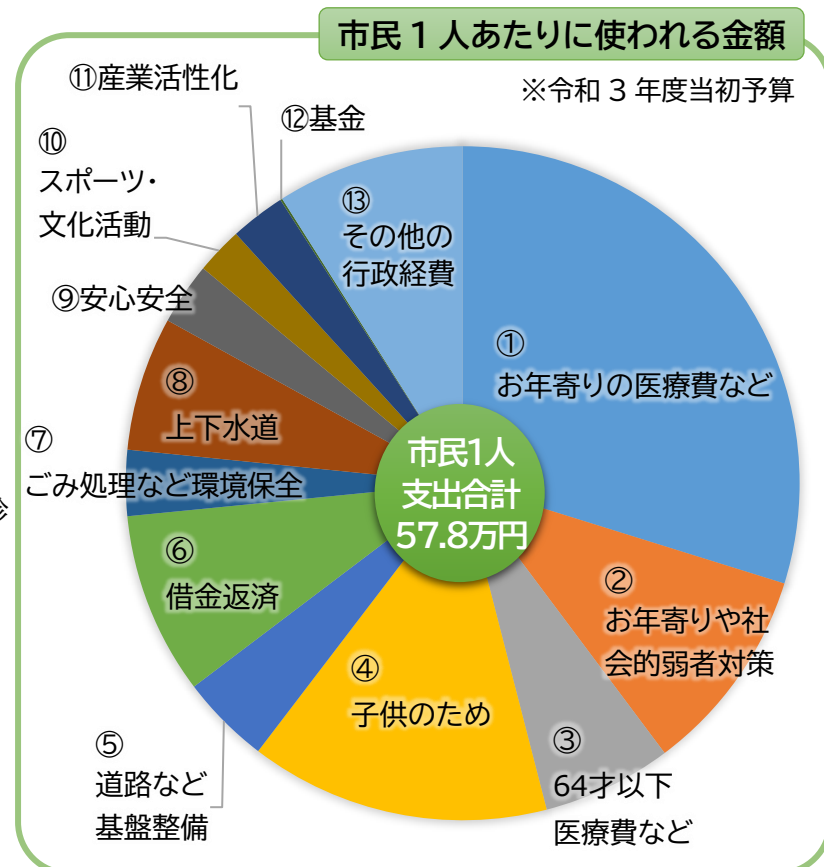
北清掃センターやし尿処理場、火葬場などの運営・保全。

⑧『上下水道』 (37,173円)

水道の安全・安定供給のための浄水場や水道管の運営・保全。下水処理の費用や下水道管の整備・保全。

⑨『安心安全』 (17,229円)

消防や防災倉庫など災害への対応や備え。地域の自治会(1,470円)や交通安全への補助などを含む。



⑩『スポーツ・文化活動』 (13,003円)

スポーツ施設や公民館、文化会館、図書館などをはじめ、市内の歴史・文化施設の運営・保全。スポーツや文化活動団体への補助を含む。

⑪『産業活性化』 (15,280円)

農林水産業や商工業の支援、航空宇宙博物館(1,218円)の運営費など。

⑫『基金』 (568円)

貯金のこと。この項目は当初予算の時は大雑把な金額であり、あまり重要でなく、主に決算の時のチェックが大切となる。

⑬『その他の行政経費』 (52,012円)

上記以外の市役所運営経費。コンピュータ管理のためのシステム保全(5,370円)、庁舎建設(本年度分20,961円)を含む。

ワンポイント解説

- ◆ 『市民1人あたりに使われる金額』の中で、大きな割合を占めるのは社会保障にかかる費用です。医療や生活保護など合計は市民1人あたり26.6万円(総額は390億円)で、現在建設中の市庁舎が、毎年4つ建てることができる費用に相当します。「社会保障の充実」と「負担のあり方」のバランスが大切です。
- ◆ 本年度の予算には以下の「コロナ感染予防対策費」が入っています。合計金額は、市民1人あたり1,164円(総額は1.7億円)です。
 - ④『子供のため』に、オンライン寺子屋事業。
 - ⑬『その他の行政経費』に、手続きや案内などのスピードアップやミス削減のため、行政運営のデジタル化を進めるための事業。
 - 全体の項目それぞれに、消毒液など保健衛生にかかる経費。

市民 1 人あたりの財源は 58.1 万円（右横のグラフ）

市の財源の半分近くは、国や県からの『交付金』や『補助金』などになります。

市民 1 人あたりの『使われる金額』（表面グラフ）と『財源』（右横グラフ）を比べると、

- 財源の『上下水道代』より、支出の『上下水道にかかる経費』が多い。
- 財源の『国保など保険料』より、支出の『医療費』が大幅に多い。

などが見て取れますが、足りない分は『市民税など税金』や『国・県からの資金』で補っていることになります。

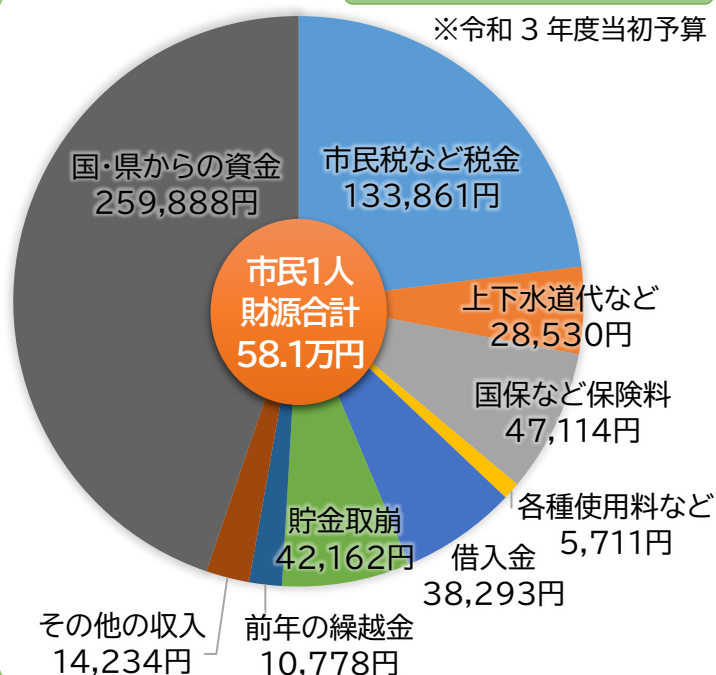
コロナ感染予防対策などの財源の予算は、当初予算にはほとんど含まれず、年度途中にその都度、補正予算が上がります。

ワンポイント解説

国や県からの指示にしたがって行う事業や業務がある一方、「これがやりたい」「こういうことが必要だ」という交渉を国や県に対して行い、財源を得ることもあります。近年は後者の財源獲得の比重が増えてきており、「将来の市の絵を描くこと」の重要性が増してきています。

市民 1 人あたりの財源

※令和 3 年度当初予算



過去 12 年間の決算の推移

過去 12 年間にわたり決算を分析してきました。集計・分析をするときは、以下のようなやり方や考え方で行っています。なお今回のレポートには、分析結果についての解説はありませんのでご了承ください。

独自の分析方法① ～何のために使われているの？！

市の決算書を見ると、『〇〇費』などわかりにくい項目で記載されています。また、一つの『□□費』の中に、「お年寄りのため」や「地域の安心安全のため」、「子どものため」などが混ざって入っている場合もあります。

市民の『税金』や『負担金』などが、「何のために、誰のために、いくら使われたのか」をわかりやすくするために、市の会計を一度バラバラにして、グループ分けし直して計算することになっています。根気のいる作業ですが、毎回がんばっております。

独自の分析方法②

～一つの財布で考える

市の会計には『一般会計』の他に、5 つの事業会計があります。（説明は表ページ参照ください）

「税金の使われ方」を考えるため、『水道会計』（基本的に税金が使われず、使用料だけによる独立採算で運営している会計）を除いた 5 つの会計を合わせて、ひとつの大きな財布として考えて集計をしています。

独自の分析方法③

～繰入金の扱い方

毎年『一般会計』から『各事業会計』へお金が移動します。これを一般会計の中では『操出金』、各事業会計のなかでは『繰入金』といいます。

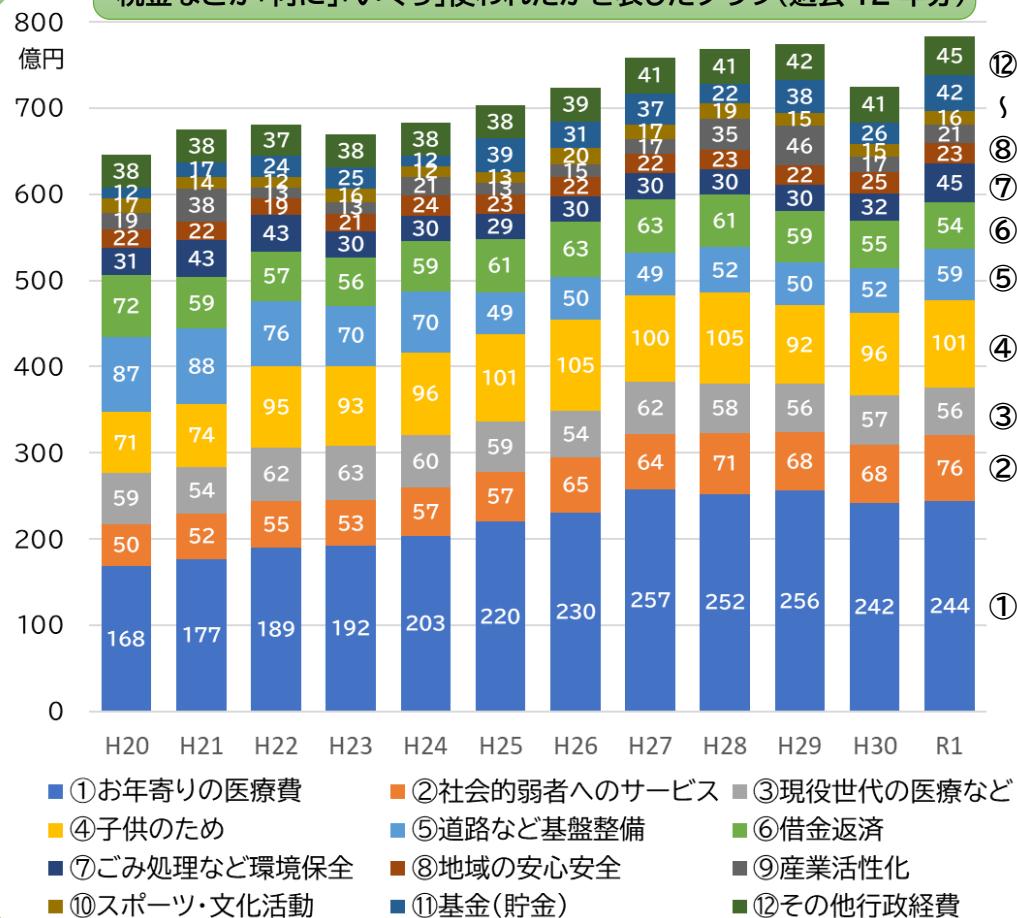
これは主に以下の二つの理由によるものだと考えます。

- ① 各会計には一般会計の財源（税金など）で負担すべき事業内容があるため。例えば以下のようなもの。
 - 国保会計の中の、低所得者の保険料を軽減するための補助をする事業。
 - 介護会計の中の、要介護状態にならないための予防に対する補助をする事業。
 - 下水道会計の中の、雨水排水路の整備をする事業。

- ② 利用者の負担金（保険料や使用料など）だけでは、それぞれの特別会計の財源が足りないため。

各種会計の財布を、市全体の大きなひとつの財布に合わせて考えると、「会計間の操出金・繰入金」は大きな財布の中で移動しているだけのお金になるので、集計するときは省いて考えています。独自の集計方法をしているので、市が広報誌などで発表する数字と異なります。

税金などが「何に」「いくら」使われたかを表したグラフ（過去 12 年分）



毎年の予算・決算について分析をし、細かく事業のチェックを行いながら、市政の全体像や本質をしっかりと見ていきます。「木を見て森を見ず」とならないように心がけています。

編集担当：池戸一成

